

研究活動報告

日本人口学会2003年度第2回東日本地域部会

2004年4月10日(土)午後、国立社会保障・人口問題研究所にて開催された。日本人口学会の東日本地域部会担当理事である大塚柳太郎東京大学教授を座長として下記4題の報告がおこなわれた。これは本年6月の大会シンポジウムと同一の発表者・題目によるものであり、このシンポジウムの基本事項あるいは問題点などを事前に発表し、本主題に関し議論を深めることを目的としたものである。

1. 「少子化社会におけるリプロダクティブヘルスの意義と課題：問題提起」佐藤龍三郎（国立社会保障・人口問題研究所）
2. 「ヒトの性・生殖過程：人口統計学的方法と課題」中澤港（群馬大学）
3. 「家族計画と性感染症予防：保健医療の現場から」早乙女智子（ふれあい横浜ホスピタル）
4. 「不妊と生殖技術：現状と倫理的社会的諸問題」仙波由加里（お茶の水女子大学）

会員、非会員含めて18人が出席し専門的な質疑がなされた。

（佐藤龍三郎記）

日本人口学会第56回大会

日本人口学会の第56回大会は、2004年6月11日(金)～12日(土)の二日間、東京大学の主催により本郷キャンパス・山上会館において開催された。本大会は大塚柳太郎東京大学教授を大会運営委員長とする大会運営委員会のご尽力によって、合計221名の参加者があり（非会員を含む）、二日間にわたって活発かつ実質的な討議が行われ、盛会のうちに幕を閉じた。シンポジウム、テーマセッション（1, 2, 3）、及び自由論題の組織者、報告題目、報告者、討論者等は以下のとおりである。

●シンポジウム 「少子化社会のリプロダクティブヘルス」

<組織者>大塚柳太郎（東京大学）

<座長>池上清子（国連人口基金）

1. 少子化社会におけるリプロダクティブヘルスの意義と課題：問題提起
佐藤龍三郎（国立社会保障・人口問題研究所）
 2. ヒトの性・生殖過程：人口統計学的方法と課題
中澤港（群馬大学）
 3. 家族計画と性感染症予防：保健医療の立場から
早乙女智子（ふれあい横浜ホスピタル）
 4. 不妊と生殖技術：現状と倫理的社会的諸問題
仙波由加里（お茶の水女子大学）
- <討論者>林謙治（国立保健医療科学院）
阿藤誠（国立社会保障・人口問題研究所）

●テーマセッション

テーマセッション1 「ジェンダーと人口問題」

<組織者>早瀬保子（元アジア経済研究所）

- ＜座長＞津谷典子（慶應義塾大学）
1. 国際人口開発会議「行動計画」履行10年の中間評価：ジェンダーの視点から
大橋慶太（モントリオール大学）
大橋泰子（国連児童基金西・中央アフリカ地域事務所）
 2. ジェンダーとリプロダクティブ・ライツ
谷口真由美（大阪国際大学）
 3. 途上国の現場で考えるジェンダーとリプロダクティブ・ヘルス
西田良子（家族計画国際協力財団）
鈴木良一（家族計画国際協力財団）
 4. 若者性行動調査からみたジェンダー：ニカラグァ国グラナダ県の高校生について
小松隆一（国立社会保障・人口問題研究所）
 5. 途上国における所得水準の変化とジェンダーバイアス：幼児死亡率の男女格差を中心に
上山美香（一橋大学）
 6. 夫の家庭役割と夫婦の出生力との関連について
藤野敦子（京都産業大学）
- ＜討論者＞野上裕生（アジア経済研究所）
永瀬伸子（お茶の水女子大学）

テーマセッション2 「マイクロデータを用いた人口分析」

- ＜組織者＞安藏伸治（明治大学）
＜座長＞小島宏（国立社会保障・人口問題研究所）
1. 現代女性の離家と結婚に関する分析：離家経験は女性の結婚を早めるか？
福田節也（明治大学）
 2. 男子結婚行動に関する分析
坂西明子（奈良県立大学）
 3. 婚前妊娠と配偶者選択：新しい家族形成パターンの位置づけに向けて
ジェームズ・レイモ（ウィスコンシン大学）
岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）
 4. オランダのパートナーシップヒストリー：日本との比較
松尾英子（ルーヴァン大学）
 5. 既婚女性の就業中断・再就業のイベント・ヒストリー分析：全国家族調査データを用いた検討
加藤彰彦（明治大学）
 6. 若年フリーター増加がもたらす将来の人口構造への影響：
マイクロシミュレーションモデルによる人口の将来推計
稲垣誠一（農業者年金基金）
- ＜討論者＞新田目夏実（拓殖大学）
村上あかね（家計経済研究所）

テーマセッション3 「形式人口学的方法とその応用」

- ＜組織者＞稲葉寿（東京大学）
＜座長＞高橋重郷（国立社会保障・人口問題研究所）
1. 多相生命表による平均就業期間の分析
別府志海（麗澤大学）
 2. 期待所得と出生率
沈東（神戸大学）
 3. 「より多く」から「より早く」：年齢シフト出生率の将来人口への影響
岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）
 4. 沖縄における死亡率の推移（1921-2000年）
藤楠登（ルーヴァン大学）
 5. 人口減少期における人口諸変数の形式人口学的分析
ミッシェル・ブラン（ルーヴァン大学）
石井太（厚生労働省大臣官房統計情報部）

<討論者>金子隆一 (国立社会保障・人口問題研究所)
松下敬一郎 (関西大学)

●自由論題

[第1部会]

- <座長>森岡仁 (駒澤大学)
大山昌子 (一橋大学)
1. 子どものコストが少子化に与える影響
 2. わが国コーホート出生力の動向とその要因 金子隆一 (国立社会保障・人口問題研究所)
 3. 出生率回復の条件：ヨーロッパの経験に学ぶ 河野稠果 (麗澤大学)
<座長>和田光平 (中央大学)
 4. 地域間出生力格差に関する要因分析 佐々井司 (国立社会保障・人口問題研究所)
 5. 年齢別有配偶出生率について 鈴木透 (国立社会保障・人口問題研究所)
 6. 若年世代における子ども需要の変化：出生動向基本調査から
守泉理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)

[第2部会]

- <座長>尾崎美千生 (人口問題協議会)
シャミシヌリ・アブドケリム (東京農工大学)
周美林 (東京農工大学)
馮文猛 (東京農工大学)
1. 中国新疆和田地区における高離婚率
 2. 中国の出生性比不均衡についての現状と問題
 3. 中国における人口流動と戸籍制度改革
<座長>高坂宏一 (杏林大学)
内海健寿 (会津大学)
 4. イスラエルの人口問題：矢内原忠雄「論文」を基調に
 5. 東南アジアにおけるイスラムと夫妻の就業行動：SWAFデータの比較分析
小島宏 (国立社会保障・人口問題研究所)
 6. ロシアの地域別人口変動：1989年と2002年の国勢調査の比較 田畑朋子 (北海道大学)

[第3部会]

- <座長>林謙治 (国立保健医療科学院)
1. 年齢各歳別死亡確率推定手法の改良と都道府県別生命表
大場保 (国立社会保障・人口問題研究所)
 2. 生後1年間の死亡率の年齢パターン：日本と米国
南條善治 (東北学院大学)
吉永一彦 (福岡大学)
 3. 宮城県の地域別死亡率の解析
萩原潤 (宮城大学)
<座長>山口喜一 (元東京家政学院大学)
 4. 健康状態を入れた世帯の将来推計 府川哲夫 (国立社会保障・人口問題研究所)
 5. 人口・世帯構造と所得格差 小島克久 (国立社会保障・人口問題研究所)
 6. 平成12年国勢調査の精度検証について 石原秀男 (総務省統計局)

[第4部会]

- <座長>岡崎陽一 (日本大学)
鎌田健司 (明治大学)
坂本和靖 (家計経済研究所)
1. 婚前妊娠の規定要因
 2. 親子間関係と結婚行動
 3. 祖父母と孫の関係からみた世代間支援 千年よしみ (国立社会保障・人口問題研究所)
<座長>古郡頼子 (中央大学)
谷典子 (慶應義塾大学)
 4. わが国における就業と家事

5. 「ケアする家族」と子育ての困難 童睦子 (名城大学)
 6. 労働時間が女性の就業継続に及ぼす影響 松田茂樹 (第一生命経済研究所)
 [第5部会]

- <座長>杉野元亮 (九州共立大学)
 1. 貧困削減をめぐる開発経済学の新しい展開と人口政策 野上裕生 (アジア経済研究所)
 2. 環境クズネツ曲線と人口：欧米諸国とアジア諸国の事例 増田幹人 (駒澤大学)
 3. タイ国バンコクにおける高齢者の同居行動と生活の質について 森木美恵 (ペンシルバニア州立大学)
 <座長>西内正彦 (共同通信社)
 4. インドの家族計画 嵯峨座晴夫 (早稲田大学)
 アロック・クマール (早稲田大学)
 5. インドにおける人口転換の波及：アーンドラ・プラデーシュ州の事例 西川由比子 (城西大学)
 6. ヤミ中絶から避妊へ：米軍統治下沖縄の出生力転換と助産婦たちの活動 澤田佳世 (日本学術振興会特別研究員)

[第6部会]

- <座長>濱英彦 (元成城大学)
 1. 日本と地域の少子高齢化の推移比較 坂井博通 (埼玉県立大学)
 2. 東京都心地域における純移動率と年齢構造の変化 清水昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)
 3. 北海道における少子化の特徴 原俊彦 (北海道東海大学)
 <座長>大林千一 (総務省統計局)
 4. 小地域データを利用したコーホート変化率による地域分析 田村朋子 (統計情報研究開発センター)
 小西純 (統計情報研究開発センター)
 5. マルコフ連鎖モデルによる都道府県人口の分析 吉岡茂 (立正大学)
 6. 戦後日本の長距離人口移動の決定因の変化について：
 1970年から2000年の国勢調査結果を利用して 伊藤薫 (岐阜聖徳学園大学)

[第7部会]

- <座長>岡田實 (中央大学)
 1. 少子化を政策課題とすることの妥当性について 池田一夫 (東京都健康安全研究センター)
 灘岡陽子 (東京都健康安全研究センター)
 倉科周介 (老人保健施設ケアセンター阿見)
 黒田俊夫 (家族計画国際協力財団)
 <座長>山口三十四 (神戸大学)
 2. 逆転の論理：「人口」の登場 小川直宏 (日本大学)
 3. 日本の人口ボーナスの終焉
 4. 人口変動，経済成長及び社会保障財政の長期展望 加藤久和 (国立社会保障・人口問題研究所)

[第8部会]

- <座長>渡辺真知子 (明海大学)
 1. 1990年代におけるタイの国内人口移動：労働力調査の個票データによる分析 栗田匡相 (一橋大学)
 2. タイにおける女性の人口移動と結婚行動：2000年センサス個票データを用いて

3. ラオスの人口移動と出生力
4. マレーシアの経済発展と人口変動
5. 中国の国際人口移動

[第9部会]

1. 日本人口の地理的分布に関する歴史的考察
2. 近世上名栗村の養女に関する分析
3. 石見天領の人口変動
4. 『日本疾病史』データベース化の試み
5. 年齢別死亡率を用いた歴史人口遡及推計
6. 統計GISプラザについて

中川聡史（神戸大学）
 <座長>若林敬子（東京農工大学）
 高橋眞一（神戸大学）
 大塚友美（日本大学）
 早瀬保子（元アジア経済研究所）

<座長>石南國（城西大学）
 鬼頭宏（上智大学）
 戸石七生（東京大学）
 廣嶋清志（島根大学）
 <座長>斎藤修（一橋大学）

浜野潔（関西大学）
 林玲子（政策研究大学院大学）
 相田昇（総務省統計局）
 （加藤久和記）

日本中東学会第20回大会

日本中東学会（会長：小杉 泰・京都大学教授）の第20回大会（実行委員長：永田雄三・明治大学教授）が2004年5月8日（土）～9日（日）の2日間にわたって神田駿河台の明治大学リパティータワーで開かれた。初日の午後には公開講演会、アラブ音楽レクチャー・コンサート、総会が行われ、2日目には午前・午後とも5部会が設けられた。今回の公開講演会「<オリエンタリズム>再考」（講師：杉田英明・東京大学）、「サハラ日本人」（講師：小堀 巖・国連大学）はいずれも興味深いものであったが、人口には直接的な関係がなかった。他方、人口に関係する報告としては以下の4つがあった。

CHO, Hee Sun（韓国・明知大学校）"Islamic Family Law, Possibilities of Reform from a Women's Rights Perspective: A Study on Egyptian Intellectuals' Perception of the Family Law"

小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）「東南アジアにおけるイスラームと教育達成」

Ali EL-SHAZLY（Cairo University）and GOTO Yutaka（弘前大学）"An Attempt of GIS Analysis on Urban Development in the Edge of Greater Cairo"

大河原知樹（東北大学）「近代における移民運動とユダヤ教徒：イギリス・オスマン関係を中心として」

なお、来年の第21回大会は5月14～15日に大阪府吹田市の国立民族学博物館で開催される予定である。（小島 宏記）

2004年度日本女性学会大会

本大会は、2004年6月12日と13日、鳥取県立倉吉未来中心で開催された。鳥取県の行政関連の方や